

山梨県総合計画審議会第2回基盤部会 会議録

1 日 時 平成21年6月5日(金) 午前10時～正午

2 場 所 ベルクラシック甲府「コンチェルト」

3 出席者

・ 委 員 (50音順、敬称略)

芦澤 敏久	天沼 操	市川 三千雄	金井 博	小池 とし子
三枝 清	清水 純子	新藤 久和	内藤 悦次	中込 裕
長谷川 正一郎	堀内 光一郎	渡邊 真弓		

・ 県 側

知事政策局長 企画部長 観光部次長 県土整備部長
(事務局：知事政策局) 政策参事 政策主幹

4 傍聴者等の数 2人

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 部会長あいさつ
- (3) 知事政策局長あいさつ
- (4) 議事
- (5) 閉会

6 会議に付した議題 (すべて公開)

- (1) チャレンジミッション'09について
- (2) 平成20年度県民意識調査の結果について
- (3) チャレンジ山梨行動計画の中間見直しについて
- (4) その他

7 議事の概要

(1) 議題(1)～(3)について

議題(1)に関し、資料1により各部局長等から担当事務に係る「むすぶ・やまなし」の4事業について説明、議題(2)及び(3)に関し、資料2、3により事務局から説明した後、次のとおり意見交換を行った。

(委員)

3点ほど意見を出させていただく。

1点目はチャレンジミッションについて。リニア中央新幹線の早期実現と骨格道路網の整備推進について、費用が幾ら掛かき将来の借金がどれだけ残るのか、また、自然がどれだけなくなり、地球温暖化に対しどれだけ逆効果になるのか。事業に反

対というのではなく、推進時には、時代に合わせた住民の意識を高めていくことが重要なので、国が幾ら県が幾らという部分がどれだけ掛かるというものが後世に対して分かるように「見える化」をして欲しい。また、リニアであれば大阪・名古屋・東京、骨格道路網であれば近隣の長野・群馬・埼玉・東京など、関係している都県との関係の中での山梨の使命は何かという部分を住民に周知すれば、自分達の問題として受け入れられると思う。

2点目は、県民意識調査について。かなりの部分で何を行政に求めるのかという設問が多いが、住民が何をなすべきかという設問に切り替えていくほうがいいと思う。次の調査時には考慮してもらいたい。

3点目は、チャレンジ山梨行動計画の見直しについて。今は知事のおかげで、改めて山梨は何がいいのかということを見直すきっかけができてきている。ぜひ山梨ならではの方向性をもって、何を優先すべきか、優先しないかという点も入れてもらいたいと思う。具体的に言うと、基盤部会では「むすぶ・やまなし」で、骨格道路網とリニア中央新幹線の早期実現が検討課題となっているが、実際には「人と人を結ぶ」という部分があると思うので、「暮らしやすさ日本一」を考えた時には、車や道路というハードだけではなく、そこに住んでいる人と人をどう結んでいくかというソフトの部分が大切。これからはお金を使わないで、いかに満足度を上げるかということが重点課題だと思う。行動計画の見直しに際しては、山梨ならではの、県の立ち位置というものを優先順位付けして入れてもらいたい。

(企画部長)

リニアが環境を破壊するのではないかとの意見であるが、リニアは飛行機と比べ二酸化炭素の排出量が少なく、環境破壊等リニアが環境に与える影響はリニア自体の技術的な特性等々からして小さいと考えている。

また、経費負担についても県民に知らせるべきではないかとの意見であるが、基本的にはJR東海が自己負担で建設するもの。県としては、駅についても鉄道施設の一つとして、JR東海の負担ということを主張している。

次に、他県との協議・連携についてであるが、県独自のリニア中央エクスプレスの建設促進期成同盟会、沿線9都府県によるリニア中央エクスプレス建設促進期成同盟会を毎年開催しており、その中で連携して国やJR東海に対し要望している。

(県土整備部長)

「見える化」については、日頃から積極的に情報を出していると認識しているが、今後も努力していきたい。新山梨環状道路については、数年前にいわゆるPIという手法で計画を行ってきており、事業費の情報も含め今後やっていこうと思う。

(知事政策局長)

県民意識調査については、行動計画を推進する上での参考資料という視点で意見をもらっており、時系列で同じ様な項目により統計を取っている経緯もあるから、今後どのような取り組みができるか検討させてもらいたい。

行動計画の見直しについても、委員の皆様方からの意見を踏まえ検討していく。

(委員)

「見える化」については前回、他の委員からも指摘があったところであり、永遠のテーマである。これからも分かりやすさを心掛けていくことが必要だと思う。

(委員)

県民意識調査報告書の中で、公共施設についての要望として、日常生活でよく利用する道路を整備をしてほしいという希望が高いにも関わらず、チャレンジミッション'09には入っていない。環状道路でも、南アルプスから平和通りまで走るとアイメッセの北側が一般道路というのは非常に不便である。将来的なことを考えると、地元が反対しても信号がない道路にするべきだと思う。また、南甲府警察署から北上して右に斜めに曲がる所や、その先のバイパスとの交差点の生活道路がボトルネックになっている。日常生活でよく利用する道路の渋滞について、いかに早くなくすかが大切。交差点の改良だと思うが、もう何年も何も変わっていないという印象が強く、重点的に対応していないのではないかと思う。まずは日常生活で利用する道路を毎年1カ所ずつクリアしていくことが重要だと思う。

(県土整備部長)

もちろん生活道路の渋滞を解消するのも大きな重点項目である。県内の渋滞ポイントはリストアップしてあるので、基本的には渋滞が激しい所から対処している。用地の問題等があり、なかなか優先順位のとおりにはいかないが、基本的には渋滞の激しい所から対処していく。

(委員)

県民意識調査は、全国ベースで各県が行っているのか。山梨県民の意識は、どこに特徴があるのかが分かるともう少し狙いを定めた施策が立てられると思う。

意見としては、計画された事業については大至急、徹底的に実施してもらいたい。県民が利益を早く享受することで、それが大きな次のステップにつながると思う。

行政としては、県民の意見・要望については、当然のこと、最優先課題として対処しなければならないが、あまりに県民の意識ばかりに振り回されるのはどうかと思う。

太陽光発電や燃料電池を含めて、将来の山梨の産業構造をどうするのかというような点について、長期的ビジョンを持って県民を引っばっていくことも必要である。

また、東富士五湖道路がなかなか開通せず不便を感じている。計画をしてあるものは前倒しでやるということ全面的に押し出してもらいたい。

(政策参事)

県民意識調査については、手元に資料はないが恐らく各県でも同じような調査を実施していると思う。ただ、実施をする時点、内容、調査仕様は統一化されていないので、全国的な比較は難しい。

(知事政策局長)

計画をしている事業についてはスケジュールを定め、全庁を挙げてできることはなるべく早くという意識で臨んでいる。

(委員)

長期ビジョンを示し、方向性をもってしっかりと進めるべきだという考えについては全くそのとおりだと思う。

(委員)

富士北麓国際交流ゾーン構想を、今回初めて見た。私が所属している協会では、今回、総務省からユビキタス特区の内定をもらい、実証実験をすることが決まった。場所は、たまたま河口湖、山中湖付近で、新しい通信方式の Wi-Fi (ワイファイ) を使い、外国人向けにコンテンツを作成するという実験であり、同構想と一緒に取り組むところがあると思う。通常は市町村が補助金を受けてやることが多いが、近ごろは、社団法人が受けたり、あるいはコンソーシアムが受けるという形もあり、今頑張っているところ。市町村や県に対して要望するだけでなく、国から実験・調査等々を受けることで各団体も活性化していくことが必要。山梨は山に囲まれて閉じた地域であり、閉鎖的な実験をするには非常に適した地域と聞いている。今回この話は我々としても是非協力していきたい。

(企画部長)

ユビキタス特区の関係は企画部で所管をしている。ITを使った地域経済活性化事業が国から認められ、富士北麓の富士河口湖町で行われている。富士北麓地域を訪れる国内外の観光客に対して、いろいろな情報を無線技術の組み合わせにより提供しようというのが実証実験の内容である。こうした取り組みは、国際交流ゾーン構想の計画の一つのメニューに加えることも考えられると思うので、知事政策局とも連携をしていく。

(委員)

私は、以前から東京との一体化の必要性を発言している。山梨は自然が非常にいいので、もっと東京との連携を図ったらどうか。山梨県はミネラルウォーターが豊富だが県民はあまりそれを認識していない。県外の人から見ると、今後、ミネラルウォーターが山梨県にとってPRの面でプラスになると思う。私の友人も山梨は、水の宝庫だということを言っており、企業誘致に関してもこういったことをPRしてもらいたい。

(委員)

リニア中央新幹線が山梨に出来るのは大変重要。富士北麓国際交流ゾーン構想のことも考えると、リニア中央新幹線については、富士山が裾野からよく見える富士北麓に出来ればと思う。日本人の意識の中に、富士山が静岡と認識されているのは、やはり新幹線が通り富士山が見えるということがあると思う。そこで、山梨の富士五湖に富士山があるということを認識してもらうためにも、リニア中央新幹線は富士北麓の裾野から富士山が全部見える場所を通ることを、皆さんの力で推進していかなければと思う。

(企画部長)

富士山を活用していろいろな事業に取り組むことが重要。その一つが、富士山世

界文化遺産登録。富士山の裾野を含めて富士北麓の地域の活性化を目指している。富士山は、山梨県にとって観光の上でもいろいろな意味でキーワードだと思っている。

リニアの駅がどこに出来るかというのはJ R 東海で考えているところである。リニアは東京圏と大阪圏を最短で結んで、東海道新幹線のバイパス機能を兼ねて計画をされており、基本的には経済性やリニアの特性といったものを踏まえ最終的にはJ R 東海が決めていくものだと思っている。山梨県内でも4地区から駅の設置についての要望があり、J R 東海には伝えてある。最終的な決定権はJ R 東海が持っている。

(委員)

行動計画の基本目標が、漢字ではなく、大和言葉で全部まとめられているのはセンスがいいと思う。基盤部会で検討している「むすぶ・やまなし」というのは、大変重要なことだと思うが、道路やリニアとか交通基盤に少し偏り過ぎていると思う。先ほど他の委員からも話があったが、もう少し情報の面にも目を向けて、様々な新しい施策を検討してほしい。横須賀に横須賀リサーチパーク（Y R P）という日本の通信の研究開発拠点があり、山梨と横須賀をネットワークを結んで海外に情報発信したり、海外から山梨に流せるような、そういう実験ができないか、今検討しているところなので、その辺も考えてもらえればありがたい。道路や鉄道などのネットワークは、その場を通過するだけであって、それだけでは何かが残るわけではない。山梨大学でも、中国から修士の方を集めて日本に来てもらう新しい教育プログラムを組んでいるが、外国から来た人と地域の人達が、多様な交流を図ることによって新しいものが生み出されていくのではないかと、個人的には非常に期待している。基盤部会でも、基盤を整備した上で、どういう活動をするのが山梨を良くしていくかという視点を、ぜひ加えて検討してほしい。

(企画部長)

委員の指摘は、まさしくそのとおりであり、今後さらに検討したいと思う。産学官の連携もI C Tの関連部門だけではなく本県に集積をしている二次産業などとの連携・交流も含め、また検討していきたい。

(委員)

先ほどの委員の発言にあったが、私も、自然を大事にしたいと思う。ただ、他の委員が言われたように、産業がないと県民が報われないとも思うので、どちらも大事だと思う。やはり、県民を巻き込んで、県民が理解して、県民と一緒に山梨を盛り上げていくことが必要。

(知事政策局長)

委員の指摘のとおりだと思う。県としても、「暮らしやすさ日本一」の山梨を目指したいという大目標がある。県民の意識を高めていくために、私達が何をすべきかを日頃から意識して取り組んでいきたいと思う。

(委員)

県の優先順位がよく分からない。何をして何を削るのか。全部できるのか。その辺の優先順位を決めて、答えを出してもらいたい。県の各部局、横断的な連携が必要だと思う。スピードを上げてやってほしい。

(委員)

チャレンジ山梨行動計画の見直しに当たっての基本的な考え方に「厳しい経済情勢のため、策定後に発生した県政の重要課題を勘案し」が掲げられているが、100年に一度と言われているこの経済危機が、この基本計画の中にどのように反映されて見直しされていくのかといった危機感が伝わってこない。それから、何に優先順位をつけるかということが見えず、山梨がどこに向かって行こうとしているのかが分からない。

次に、山梨は観光とか産業など県外から観光客や産業を呼び込んで、山梨県の外からお金が流入する仕組みを考えつつ、暮らしやすさや自然を守っていくなど、相反する両方を達成していかなければならないと思う。県は、まずは高規格道路やリニア、そして一番最後に生活道路を充実していくというような感じだが、やはり一緒に取り組んでもらいたい問題だと思う。また、財政の中では、何を、どれだけの予算で組んでいるのかを、一般の人にも見えるような形で資料を提示してほしい。

(知事政策局長)

県から危機感が伝わってこないという指摘であるが、県としても危機感を持って、それぞれ課題にチャレンジをしている。中には、様々な要因で進展が図れない部分があるが、なるべく優先順位をつけ取り組みを強化していきたい。

(委員)

先ほどの委員の発言にあったとおり、私たちが経済情勢の激変を受ける中で改めて山梨について危機感を持つというのは本当にそのとおり。我々委員にも大きな責任が課せられていることを自覚すべき。

(委員)

県民意識調査の結果から、教育・文化の満足度の低さと所得・消費の満足度の低さがリンクしているということで危機感を感じている。県民の9割が「自然環境に恵まれている」ことが、山梨県のよいところとの結果であるので、県民はとても県の自然を愛しているということが、よく分かる調査だったと思う。この自然豊かな山梨でリニアを早期実現する意義は何かということを考えると、観光客が、富士北麓、八ヶ岳、昇仙峡などの自然を目当てに県外から来るからだと思う。昨日、観光推進機構に行ってきたが、着地型観光ということを推進していた。例えば観光客に、リニアに乗って山梨に環境の勉強に来てもらい、そこで着地型観光をしてもらう。そういう観光と開発とを結び提携させることが必要であり、自然とリニアが、環境と開発が存在するだけでなく相乗効果を生み出すようなものの象徴が山梨の売りとして強調されていくことが大切だと思う。

(企画部長)

リニアを活用した環境教育や山梨の活性化について今後検討していきたい。また、

山梨の自然や環境を将来にわたって引き継いでいかなければならないので、開発についても配慮していくことが必要だと思う。

(委員)

暮らしやすさ日本一の山梨を目的にして、県民意識調査等を踏まえ、かなりきめの細かい部分まで配慮した行動計画が考えられており、おおむね順調に進んでいるのではないと思う。それよりも、似たような各種審議会や協議会が乱立しているので、県で整理してもらいたい。また、不況対策について県が対応を取らなければ、恐らくかなり多くの倒産、破産が出ていたのではないと思う。県に対して甘いという声があるかもしれないが、助かっている。リーダーシップを握るのは県であり、そのための税金を払っているところ。これまで以上に県にリーダーシップを持ってもらい、県民の意見を聞く中で、暮らしやすさ日本一の県になるように取り組んでもらいたい。

この中に国際交流が出ていたが、いかにして外国から観光客を誘客して県を豊かにするかという一方向的な考えではなく、相手の国の立場になった対応をすることが必要だと思う。甲府商工会議所では、四川省の成都市との交流の為に10年間経費を負担して事務所を維持してきたが、県や市の補助がなくなり、内部でもいろいろな意見が出てきたことから、今年から撤退した。県や市が補助をして拠点を維持していれば、たまに知事が行くよりも良い。折角10年間も維持してきた拠点を存続できなかったのは、本当に残念である。

(観光部次長)

商工会議所で開設された成都市の事務所について、知事が現地でトップセールスをするよりも、事務所の設置のほうがよいという話があったが、私どもとしては北京と上海に事務所を置き、中銀にも御尽力をいただき国際交流に努めている。今後とも、双方がさらに交流を深めるとともに、山梨県でできるだけ観光消費をしてくれるように取り組んでいきたい。

(委員)

先程来の意見の中で、自然破壊なのか、自然を守るのか、整備をするのかという話があった。10年ぐらい前の話だが確かドイツでは、自然を破壊してそこに道路を造った場合、破壊した面積と同じ量を別のところで自然に返す、というような取り組みがあることを聞いたことがある。同様なことを、山梨県でも考える時期に来ているということを付け足してもらいたい。

(2) その他

事務局から今後の審議日程について説明し、了承を得た。